

令和元年度瑞浪市総合教育会議 会議録

(要点筆記)

日時 令和2年2月20日(木) 16時00分開会
場所 瑞浪市保健センター 3階 大会議室

出席者 (構成員)

市長	水野光二
教育長	山田幸男
教育長職務代理者	加藤博之
教育委員	可児恵太
教育委員	羽柴誠
教育委員	柴田洋子

(事務局)

事務局長	南波昇
事務局次長	工藤仁士
教育総務課長	酒井浩二
社会教育課長	大山雅喜
スポーツ文化課長	和田光浩
企画政策課長	梅村修司
教育総務課総務係長	西田寿恵
教育総務課総務係	安藤みちる

傍聴者 なし

報道関係者 なし

議事日程

- 1 市長あいさつ
- 2 教育長あいさつ
- 3 協議・調整事項
 - (1) コミュニティ・スクールについて
 - (2) さらなる ICT 教育の推進にむけて
 - (3) 2022 年成人年齢引き座下に伴う成人式の対応について
 - (4) 瑞浪市の不登校児童生徒数の推移といじめ解消率の推移
- 4 その他

○事務局長

ただいまから令和元年度瑞浪市総合教育会議を開催する。

1 市長あいさつ

○市長

令和元年度瑞浪市総合教育会議を皆様に出席いただき開催できること厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染防止について、チラシや広報みずなみで広く市民に注意喚起していきたい。愛知県でも発症者が出ているが、この地域からは名古屋へ勤めに出ている方も多く、いずれ瑞浪市でも感染者が出るということを当然想定しなくてはならない。市としても準備をしていきたいし、市長として、万が一瑞浪市や東濃5市で発症者が出たときは、感染拡大防止のために個人情報には留意しつつ発症者に関する情報を極力詳細に市民に知らせていきたい。皆様には周りの方々に注意喚起をお願いしたい。

高レベル放射性廃棄物の研究所を誘致していたが、2月4日に研究所埋戻しの着工式を開いた。埋戻しは令和4年の1月までかかる。工事が安全に進められることを願う。学校や地域でも心配の声があればお伝えいただきたい。

瑞浪市として大きな課題であった中学校統合が終了した。それぞれの中学校では校長はじめ先生方のご尽力をいただき、南中も北中も順調な学校運営がなされていると聞いている。いずれ小学校統合の話が出てくるかと思うが、市主導では進めず、地域や保護者の要望があれば判断し進めていきたいと考えている。北中については旧瑞陵中校舎解体、グラウンド整備が令和2年度行われる。今後はソフト面での整備。タブレットをきちんと配備し、活用してもらおう中でこれからの子どもたちを教育していけるとよい。先生方がICTに精通している状態で教育できるよう教育委員会にも指導していただきたい。

今日は4つの協議・調整事項がある。教育委員には忌憚のないご意見をいただき、市長部局と教育委員会の連携をとる中で、瑞浪市の教育を確立していけるよう邁進していきたい。

2 教育長あいさつ

○教育長

令和元年度は瑞浪市教育振興基本計画・後期計画の実施初年度。第6次瑞浪市総合計画の教育文化分野の個別計画として作られている。瑞浪市の教育は瑞浪市政と一体に進めていけており、市長の日頃からのご理解と教育委員会への信頼あってこそだと感じ、感謝申し上げたい。成果と課題を十分吟味しながら、瑞浪市の教育振興に努めていきたい。本日は市長と教育委員会が意見交換できる貴重な機会であるので、有意義な会議にしたい。いずれも今日的なテーマである。活発な議論をお願いしたい。

3 協議・調整事項

○事務局長

これより本日の協議・調整事項に移る。当会議の議長については、瑞浪市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が務めることが規定されている。これより、水野市長に進行をお願いする。

○市長

これより、議長を務める。

(1) コミュニティ・スクールについて

・・・資料1

講師 岐阜県環境生活部 環境生活政策課
生涯学習企画監 石原 学 氏

○石原企画監

協議・調整事項(1)について、資料・スライドにより説明

○市長

瑞浪市ではまちづくり推進協議会や区長会などが地域活動に子どもたちを参加させていると思うが、地域が学校に行くということは少ない気がする。

○加藤委員

学校運営協議会に少し抵抗感がある部分がある。校長の学校運営の承認や、教育委員会及び校長に意見を述べるということ、教職員の任命に意見を述べることについて、連合区長などが委員になると思うが、そこまで踏み込んで意見が言えるのだろうか。特に教職員の任用について、この先生はいらない、もっといい先生を入れてほしいなど、各学校のエゴのような意見になっていくのではないか。

瑞浪市はまちづくりが活発なので、紹介していただいた活動は割とできているという印象。地域住民の方が学校で、ということであれば、南中は地域の方が講師となって学校に行くオープンスクールが15年ほど続いている。そのような面でも地域とのつながりがあるのが瑞浪市の特徴といえる。

○石原企画監

教職員の任用についての意見の中身としては、学校運営のためにどんな先生を任用するかということであり、〇〇先生がいいなどの意見ではない。委員に偏りがないように合議制としている。また、教職員を任命するのは教育委員会であるためそのあたりの配慮はできるという文科省の考えがあり、今のところトラブルはない。瑞浪市の地域性については承知しているが、学校がルールを引いて依頼をするという方向ではなく、地域の子どもを育てるために地域が主体性を持つことでより広く深くなっていく。照会した事例をしなければならないということではなく、よりいいものにしていくということ。学校の働き方改革が話題だが、そのために外に依頼する、という仕組みではない。自分の学校と思って大切にしてもらい、そんな体制を作っていこうということ。

○羽柴委員

説明をお聞きし、地域と学校が活動を一緒にしていく中で「貸し借り」の関係になってはいけないということについてその通りだと思った。地域の子どもをこう育てたいという共通の目標をもっていけば活動も変わってくるのではないか。学校に放課後残ってというのも危ないし、家庭にお任せという時代でもなくなってきて、必要性は高まってきていると感じる。

○市長

既に地域で活動はできているので、コミュニティ・スクールという名のもとにシステムとして確立していくことが必要。瑞浪は動き出せばすんなりいけるだろう。令和2年4月から釜戸小、稲津小で試行的に始めるとのことなので、ご指導・ご意見いただきながらやっていければと思う。学校と地域との相互理解、信頼がないとできないこと。一方通行の取組とならないよう心掛け、釜戸・稲津の活動に期待したい。

(2) さらなるICT教育の推進にむけて

・・・資料2

(説明者 教育研究所)

○市川学校教育課長補佐

協議・調整事項(2)について、資料により説明

○羽柴委員

ICT支援員はどのような資格を持っているか。

資料中「学校での具体的な活用状況」について、図画工作や美術の事例がないが、絵を描くときに役に立つのではないか。美的感覚を小中のころに育てるのは大切であるし、活用の方法はいくらでもあると思う。

○事務局次長

ICT支援員の資格は特にない。今依頼している業者の支援員と一緒に授業に入って操作することができるような人を入れてもらっている。現状、セッティングやトラブル対応が主になっている。今後さらに専門的な使い方をする際には相談にのってもらえるだろう。

図画工作や美術での使用についてはいただいたご意見をもとに役立てるよう紹介していく。

○市長

技術的作品を作ろうと思うと、慣れていないと使いこなすのが難しい気がする。

○事務局次長

例えば、一番絵の上手な先生が絵をかく様子を動画で撮り、絵の上手でない先生がそれを授業で映すことなどができる。

○羽柴委員

対象を大きくしたり小さくしたりできる、絵を塗り替えて作品の幅が広がる。

これまでだと一本の作品しかないので失敗したら終わりだった。デザインの才能のある子が一律の指導を受けるのではなく、タブレットによって力を引き出せたらよい。

○事務局次長

紹介していく。

○市長

説明によるとアクセスポイントの数が少なく教室移動の際に手間がかかるということだが、せっかく配備するなら弱いところがあってはいけない。機器を有効活用できるよう周辺機器をそろえなければならない。

○事務局長

おっしゃる通り。タブレットパソコンとアクセスポイントを一緒に動かす現状は非効率的。国の GIGA スクール構想で整備できることはわかっているので、来年度早い時期に計画を立て、各部屋1つずつアクセスポイントを設置しどの部屋でも同じ環境で使えるようにし、その後順番にタブレットパソコンを入れていく。

○市長

予算的にはどうか。

○事務局長

ほとんど補助金でできる。この方針を今度の庁議で出し、来年度進めていく準備を進めている。

○市長

財政面の打ち合わせもあると思うが、スピード感を持って取り組んでほしい。国の計画には合わせてもらいたいし、それよりも早く取り組むように動いてほしい。

○事務局長

来年度中にはアクセスポイントを全部屋に設置するような計画を考えているので、早急に提案する。

○可児委員

タブレットの利用方法だが、例えば練習問題を解いて、タブレットから正答率を集計して個々の児童生徒の苦手分野の把握などができるようになるか。

○事務局次長

県のシステムで、正誤に合わせ問題のレベルが変わっていくようになっている。校務支援システムとも連携して改善を重ねている。今後そのようなこともできるようになるだろう。

○市長

今後とも ICT の推進を強力にすすめ、予算確保にご努力いただきたい。

(3) 2022年成人年齢引き下げに伴う成人式の対応について . . . **資料3**

(説明者 社会教育課)

○社会教育課長

協議・調整事項(3)について、資料により説明

○市長

名称はしっかり考えていただき、20歳開催、開催時期ややり方も今まで通りでよいのではないかと。今も最高の成人式ができていますので、これからも20歳の思い出に残る式にしてほしい。

○教育長

加えて、これからも地域ごとではなく市内全体でやっていきたい。

○加藤委員

式典名称について国が示すモデルはあるか。

○社会教育課長

特になし。

○加藤委員

流れはどのようか。

○社会教育課長

教育委員会で考えて、市長部局に持っていくという形になる。

○市長

早くすすめてほしい。

(4) 瑞浪市の不登校児童生徒数の推移といじめ解消率の推移 . . . **資料4**

(説明者 学校教育課)

○事務局次長

協議・調整事項(4)について、資料により説明

○羽柴委員

いじめの解消は簡単ではない。本人や保護者が「解消した」というのか。

○事務局次長

本人と保護者両方。

○羽柴委員

それだと良い。「解消に向けて動いてくれた」と保護者や子どもが感じるように対応することが重要と前からいわれているので、今後も取り組んでほしい。若い職員にも瑞浪市のいじめに対する感覚を学んでほしいし、いじめなどは地域の方がそのような目で見るとすぐにわかる。これからもアンテナを高くして取り組んでほしい。

○市長

岐阜市のいじめ事件もあった。なかなか0というわけにはいかないが、早く手

を打てると良い。

○教育長

こぶし教室は成果を上げているが不登校の子でもつながっていない子がいる。

県のカウンセラーや相談員が派遣されているが、カウンセリングを希望している子の半分がカウンセリングを受けることができない。できれば中学校区に1人は教育相談員を市費で常駐させたいと思っている。

○市長

解消するためには人員を増やすということか。

○教育長

そういうことになる。カウンセラーの資格がなくても良いので、子どもの話に耳を傾けてくれる人が常に学校にいる環境を作りたい。

○市長

学校規模も違うので一人ずつということは難しいのではないか。現状はどうか。

○教育長

一校に一人だけでなく、中学校三校に一人ずつ常駐し、校区内の小学校にも回る方法を考えている。現在、教育相談員は市としては0人で、県から派遣されるカウンセラーや相談員が回っている。順番待ちが発生しており、先生方の悩みにもなっている。

○市長

子どもが直接話すのか。

○教育長

子ども・保護者、最近は職員も受けられる。

○市長

こぶし教室に行けない子はどのような理由か。いけない子はどのようにするのか。

○教育長

行きたがらない子もいれば、行きたくてもいけない子もいる。いけない子は接触をして指導するしかないが、先生方も忙しく十分な対応ができないところがある。

○市長

いじめ同様、不登校や教育相談についても重篤になる前に対応ができると良い。地域の方に入ってもらえることはできないか。特別な資格がいるか。

○教育長

正式なカウンセリングとなると資格がいるが、話を聞く、相談にのることは地域の方にもできる。ただ、プライバシーの面が不安。

○市長

せっかくこぶし教室があるので最低でもこぶし教室にはつなげたい。こぶし教室で子どもや孫が救われたという家族の声も届いている。教育委員会で学校現場

と連携し、必要なものは市長部局への提案もお願いしたい。

○市長

本日の議事が終了したため、議事を事務局に返す。

4 その他

意見等なし

○事務局長

以上により、令和元年度総合教育会議を終了する。

17：26 閉会